

健康 ぷらざ

介護保険の頼もしい味方

- ケアマネージャーの役割 -

指導：日本医師会常任理事

青柳 俊

企画：
日本医師会

No. 73

ケアマネージャーとは？

平成12年4月から介護保険制度がスタートしました。介護保険サービスは、市町村によって行われる要介護認定において「要支援」または「要介護1～5」と判定された方が利用できることとなります（「要支援」の判定を受けた方は在宅サービスのみを利用できます）。

介護保険サービスは、要介護度に応じて決められた利用限度額の範囲内で利用していきますので、在宅で療養しながら介護保険

のサービスを利用する場合、「どのサービス」を「どれくらい」、「どのように組み合わせ利用していくのか」

などについて、月単位の「ケアプラン」を決めなければなりません。利用者の希望や身体の状態、家族の意向などに基づいて、この「ケアプラン」を組み立てるのが「ケアマネージャー」（介護支援専門員）です。

介護保険制度では、統一的な利用手続きや利用者負担で、利用者の選択により包括的にサービスを利用できる仕組みとなっています。

ケアマネージャーの役割は、高齢者が介護保険サービスを無駄なく十分に利用するために非常に重要です。



よいケアマネージャーを選ぶことが大切

介護保険サービスを十分に利用するためには、自分にあった「ケアプラン」を立てることが大切です。自分にあった「ケアプラン」を立てるためには、日頃の身体の調子や持病の具合などを十分に理解している“よいケアマネージャー”を選ぶことが重要になります。

かかりつけの医師がケアマネージャーであればもちろん、そうでなくても“よいケアマネー

ジャー”を紹介してもらうなどして、自分にあった「ケアプラン」を立ててもらいましょう。

また、介護保険サービスを利用している間でも、病院や診療所に行って診察を受けたり、薬をもらうことはもちろんできます。かかりつけ医と相談しながら、介護保険サービスを上手に利用してください。

（注）本誌に掲載されている情報は、最新の情報に更新されることがあります。